令和２年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立第十一中学校

校長　星　貞年

１　学校教育目標

・広い視野に立ち、深く考える人になろう。
・あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
・進んでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
・健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい・通わせたい・誇れる」学校 （１）基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上を目指す学校 （２）豊かな心の育成と規範意識の確立を目指す学校 （３）文武両道を実践し、生徒・保護者・地域から信頼され誇れる学校
○児童・生徒像	○「自らの生き方に自信をもち、社会に貢献できる、本気で取組む」生徒 （１）毎日の授業と家庭学習にしっかり取組み、自ら向上しようとする生徒 （２）礼節を重んじ、進んで挨拶することができる生徒 （３）自他共に大切にでき、自己有用感や自己肯定感をもつことができる生徒
○教師像	○「信頼される」教師 （１）理論と実践を重んじ、生徒一人一人の能力を伸長しようとする教師 （２）職務に真剣に取組み、生徒からも保護者・地域からも信頼される教師 （３）常に自己を高めるための研鑽に励む教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

〇 学校の現状
（１）落ち着いた学校生活環境の中で教育活動が行われ、生徒が学校行事や生徒会活動、委員会活動、部活動に熱心に取組んでいる。
（２）教職員が、授業をはじめ学校行事、部活動、地域行事、生徒指導に労を惜しまず取組んでいる。
（３）学習につまずきのある生徒や家庭学習の困難な生徒に対して、学習の場を提供して少人数指導・個別指導を含めた学習支援を行っている。
（４）開かれた学校づくり協議会、ＰＴＡ、地域と連携して、学校と地域を結ぶ「花むすび活動」「ジョイントコンサート」「ふれあいコンサート」「避難所運営訓練」等の取組をとおして、地域とのふれあいや絆が深まり、生徒の地域の一員としての自覚と郷土を愛する心情が養われている。

〇 前年度の成果
（１）学力向上アクションプランをとおして、基礎的・基本的な学力の定着および向上に向けた組織的な取組を実施することができた。
（２）生徒の学校生活アンケートにおいて「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答が 88.9%であり、生徒と教師の信頼関係が基本的に構築され、教育活動が実施できている。
（３）小・中学校の連携による指導案検討、研究授業の実施をとおして、系統性や継続性を考慮した指導展開とともに「主体的、対話的で深い学び」を導く授業工夫を図ることができた。

〇 前年度の課題
（１）確かな学力の定着と向上を図るため、学力向上アクションプランの更なる充実工夫と確かな実践を図る必要がある。
（２）社会に貢献する生徒の育成が課題であり、学校行事や取組において地域と連携し実施することを考慮していく必要がある。
（３）教師全員が足立スタンダードを基にした授業展開を実践し、特に「めあて」「まとめ」「振り返り」を大切にするとともに、ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業力向上をめざす。

４　重点的な取組事項

	内容	実施期間（年度）　H:平成　R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	〇	〇	〇	〇	〇
2	教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上	〇	〇	〇	〇	〇
3	小中連携による義務教育９年間を見通した教育の推進	〇	〇	〇	〇	〇

５　令和２年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
学力向上を図るためのアクションプラン取組の充実工夫と確かな実践	・年度末令和２年度区学力調査正答率　70％ ・令和３年度区調査通過率70％	年度末令和２年度区学力調査正答率は62.1％であった。	・７月に実施した令和２年度区学力調査活用時の校内平均通過率は 69.3％、正答率は66.6％であった。2.3 年生の平均正答率は、62.8％であり、２月に実施した 1.2 年生が進級時の令和２年度区学力調査平均正答率は62.1％であった。次年度の４月に実施される調査では目標を達成できるよう取り組んでいく。 ・令和３年度区調査通過率の目標通過率は70％をめざす。	○

Ｂ　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続・改善	家庭学習ノートによる家庭学習習慣の定着	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	【指導体制】担任あるいは学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】毎日の家庭学習習慣の定着を図るために３教科を中心とした課題を用意する。子どもたちはその課題に取り組むか、自ら設定した課題を家庭学習で取り組む。また、生徒用、保護者用の「家庭学習の手引き」（５教科）を作成・配布し、具体的な学習のヒントや関わり方のポイントを示し、家庭と連携した取り組みを行う。	担任を中心にした学年教員がノート点検を行い進捗状況を確認する。保護者が家庭学習の様子を確認する機会を設ける。	通年で 80％以上の家庭学習ノートの提出をめざす。 年２回､保護者と家庭学習ノートの様子を確認し、学習の取り組み方について話し合う。	家庭学習ノートの提出率： 第１学年……90％ 第２学年……90％ 第３学年……75％ 全体平均……85％ ２回の三者面談の中で、家庭学習ノートや学習の取り組み方について保護者と話し合うことができた。（12月の三者面談の際、「家庭学習の手引き」を配布）	本取り組みを開始し、４年が経過しようとしている。全学年、入学当初から本取り組みを継続しているため、習慣化がなされてきていると思われるが、受験期である３年生の提出率が一番低いことが課題である。 区学力調査の意識調査では、宿題がないときでも家で勉強をする肯定的な回答の割合は、区平均より 10.7 ポイント多い。	○

継続・改善	金曜日朝テスト 放課後学習	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	【指導体制】担任あるいは学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】毎週始めに「範囲表」を配布し、その週の金曜日の朝読書時間にテストを実施する。内容は基礎基本的な内容とし、基準点に達しなかった生徒は翌週の放課後学習対象生徒となる。 放課後学習では金曜朝テストが合格するまで学習を続ける。また、１学年においては、中１夏季勉強合宿用問題集を活用し、生徒の学習定着状況把握など継続的な取り組みを行う。	放課後学習で、前週の朝テスト内容の課題が解けるようにする。	計算や漢字コンテストの予習という側面もあるので､各種コンテストにおいて合格率 90%以上をめざす。	金曜朝テストは予定回数を 100%実施できた。基準点に達しなかった生徒への放課後学習も、緊急な対応を除いては､予定数を 100%実施できた。	事前課題（プレテスト等）、本テスト、放課後学習のサイクルが確立され、学習意欲の向上につながってきているように思われる。不合格者の固定化などの課題はある。	○
継続・改善	自習教室 質問教室	全学年・全生徒 国語・数学・英語・社会・理科を中心に全教科	考査１週間前期間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】家庭での学習環境が整わない生徒、あるいは質問のある生徒を対象に自習教室、質問教室を開く。 【使用教材】生徒各自の学習課題	各学年、実施のお知らせと併せて参加希望を把握する。実施日に各学年教員が参加人数を確認する。	参加希望した生徒の参加率を 95%以上にする。	各学年、すべての考査前に自習教室と質問教室を実施できた。 各学年、参加を希望した生徒の 95%以上の参加があった。	各学年、所属教員が協力し、確実に実施することができた。	◎
継続・改善	サタデースクール	自由参加 生徒自らが用意する課題	通年	【指導体制】教員２名＋地域の協力者 【取り組み内容、ねらい、目的】毎月１回土曜日の午後に実施する。参加は原則自由であるが、「2　放課後学習」で十分な成果がみられない場合は指名することもある。	実施のお知らせと併せて参加希望書を回収する。また、当日、参加者名簿を作成し、参加人数を把握する。	毎回の出席者を 10 名以上にする	各回の参加者は 10 名を超えた。考査前は 30 名を超える参加者であった。	今年度も地域の協力者の援助が確実に得られた。参加生徒が固定化している。	◎

継続・改善	朝読書	全学年・全生徒 国語	通年 登校後の 15 分間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】読書の習慣を身につけさせることで、集中力や語彙力・読解力の向上をめざす。 【使用教材】生徒各自の持参する書籍	読破した書籍名を各自が記録し、年度末にその量に応じて表彰を行う。	各学級において、全校生徒が読書に親しむ時間を保障する。	緊急を要する場面以外では、全校生徒が読書に親しむ時間を保障できた。	全校生徒が読書に親しんだ。 区学力調査の意識調査では、1 カ月に本を 2 冊以上読む肯定的な回答の割合は、区平均より 20 ポイント多い。	◎
継続・改善	各種コンテスト	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心に各教科	年間を通じて 3 回程度	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】漢字・計算・英単語（構文含む）コンテストを各学年とも各 1 回以上実施する。教科担当にとらわれず、アクションプラン 1 及び 2 とも関連させて取り組む。内容の精選と、放課後学習を活用した個に応じた指導による全員合格をめざす。 【使用教材】教師自作問題	コンテストの結果集約から確認する。	各種コンテストの合格点への合格率が 90%以上をめざす	1 月 15 日現在の状況 （　）内は合格率 第 1 学年：計算（90%） 漢字（90%） 第 2 学年：漢字（90%） 計算（90%） スペリング（90%） 第 3 学年：漢字（65%） 計算（83%） 理科（96%） 2～3 月にも実施を計画している	全学年、全員合格を目指して予備テストの実施などの工夫の成果が出ている。コンテストは 2 回以上実施している。 第 3 学年は、合格率の向上に課題が残る。高校入試対策の一環として今後さらに充実させ定着を図る。	○
継続・改善	教員の授業力向上	全教科・全教員	通年	【取り組み内容、ねらい、目的】 足立スタンダードを基に、「めあて」「まとめ」「振り返り」をふまえた授業展開の実践や成果発表授業及び校内研修などを通じて教員の授業力向上をはかる。 タブレットや大型ディスプレイ等のＩＣＴ機器を教員全員が効果的に活用し、授業力の向上をめざす。	研究授業や授業観察 各種調査結果 生徒の授業評価	学校評価アンケートで『わかりやすい』という肯定的な意見が 90%以上をめざす。 各種調査結果で前年度を上回る結果を出す。	小中連携の協議会や授業研究の実施はできなかったが、足立スタンダードを基にした授業展開の実践や ICT 機器を活用した授業による授業力向上に努めた。 年度末生徒アンケートで「授業はめあて・まとめ・振り返りを行うとともに、ICT機器を活用してわかりやすい」の肯定的回答が全体で 90.0%であった。	足立スタンダードを意識した授業展開及び ICT を活用した日々の授業実践は、引き続き意識を高める必要がある。	○
継続・改善	少人数授業	数学の授業	通年	【指導体制】教科担教師 【取り組み内容、ねらい、目的】個に応じた指導で、基礎的な内容の習得をめざす。	各種調査結果、生徒の授業評価アンケートから確認する。	生徒アンケートにおいて、「わかりやすい」という肯定的な意見を 85%以上にする。	年度末生徒アンケートでは「わかりやすい」という意見が全体で 85.5%であった。	「わかりやすい」から「自主的・主体的、深い学びへの学習活動」に発展させる。	○

継続・改善	年間指導計画の中に「前年度復習期間」と「学力確認期間」を設ける。	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心に各教科	年度当初(全学年)、11月中旬(２学年)、年度末(2月上旬から中旬)	【指導体制】教科担教師 【取り組み内容、ねらい、目的】各学年とも国語・数学・英語は年度当初の指導計画の中に「復習時間」をもうけ、当該学年指導が円滑に開始できるようにする。区調査の自校採点によって、早期に学習の定着状況を把握、分析、対策を立てる。２学年は 11 月中旬にも都調査を活用し、学習状況を把握する機会を設ける。また、年度末（２月上旬から中旬)に 1，２学年を対象に「学力確認期間」を設け、学力の到達度を確認する。	授業観察 模擬テストを実施し、結果集約から確認する。	区調査を中心に、各種調査結果で前年度成績を上回る。	休校期間中に前年度の復習は重点的に行うことができた。また、区調査の自校採点によって、早期に学習の定着状況を把握、分析、対策を立てることはできた。 学力確認は、2 月上旬に実施し次年度に繋げる。	全教科、全学年、平均は上回った。成績下位層へのさらなる支援と上位層での伸び悩みに対する対策が必要である。	○

重点的な取組事項－２	教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
確かな人権感覚に基づく生徒と教師との信頼関係を基盤にした指導と社会貢献の育成	学校評価アンケートから「信頼度」を示す項目で肯定的回答平均が 85%	生徒・保護者・開かれた学校づくり協議会委員の信頼度に関連する項目での肯定的回答平均が 90.4%であった。	信頼され、誇れる学校をめざす。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重の視点で生徒理解に基づく生徒指導と教育相談の充実	学校評価アンケートにおいて「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答が 85%	・生徒の心に寄り添う指導を基盤として、hyper-QU 調査を活用した個々の生徒の学校生活における意欲や満足感、学級集団の状態を把握し、生徒指導や教育相談に活かす	「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答平均が 90.0%であった。	生徒に寄り添い、大切にする指導をとおして個々の生徒の意欲向上や満足感をもたらす学校・学年・学級経営をめざす。	◎

チェンジ＆チャレンジの姿勢で活動する生徒の育成	学校評価アンケートにおいて「積極的な活動」に関連する項目の肯定的回答平均が 80％	・生徒会・委員会活動や学校・学年行事、部活動の積極的な参加と活動の充実を図るとともに地域と連携した取組をとおして自己有用感、自己肯定感、社会貢献する姿勢を育成する	「積極的な活動」に関連する項目の肯定的回答平均は 87.3％であった。	生徒の主体的な活動をとおして、自己有用感、自己肯定感を高める。	○
礼儀と規律ある生活ができる生徒の育成	学校評価アンケートにおいて「礼儀や規律ある生活」に関連する項目の肯定的回答平均が 90％	・生徒会や委員会活動の主体的な活動をとおして、生徒の意識を高める	「礼儀や規律ある生活」に関連する項目の肯定的回答平均は 91.3％であった。	礼儀や規律ある学校生活環境の維持ができている。生徒の主体的な自治的活動をとおしてより良い学校づくりをめざす。	◎

重点的な取組事項－３	小中連携による義務教育９年間を見通した教育の推進

Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
小中学校における学習内容や指導方法の系統性・継続性を考慮した足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにＩＣＴ機器を効果的に活用した授業力向上を図る	学校評価アンケートにおいて授業に関する項目で「わかりやすい」という肯定的回答平均が 90％	年度末生徒アンケートでは「授業はめあて・まとめ・振り返りを行うとともに、ICT機器を活用してわかりやすい」の肯定的回答平均は 90.0％であった。	足立スタンダードに基づく授業展開を図るよう努めることはできた。 ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業展開の充実が今後の課題である。	○

Ｂ　目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
足立スタンダードを基にＩＣＴ機器を効果的に活用した授業力向上	学校評価アンケートにおける「めあて」「まとめ」「振り返り」とＩＣＴ機器活用に関する項目で肯定的回答 80％	・足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を実施する	学校評価アンケートにおける「めあて」「まとめ」「振り返り」とＩＣＴ機器活用に関する項目で肯定的回答は、90.0％であった。	「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業展開に努めることはできた。 ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業展開の充実が今後の課題である。	○

系統性・継続性を考慮した授業力向上	小中連携による授業体験において足立スタンダードに基づく授業の実施	連携小学校３校の６年生児童を対象とした体験授業において足立スタンダートを基にした授業展開を実施する	コロナ禍であったが、感染防止対策を講じて体験授業をＩＣＴ機器を活用した足立スタンダードの授業展開で実施した。	系統性や継続性を意識した授業展開の工夫に繋がった。	○
中１ギャップの未然防止	６年生児童の中学校部活動体験実施	連携小学校３校の６年生児童を対象とした中学校部活動体験を実施する	連携小学校３校の６年生児童を対象に、部活動体験を実施した。	入学前の不安解消の一助になった。 一回、数十分の体験では把握できないことも多いと思われる。	○

６　まとめ

１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1　学力向上アクションプランについて

【今年度の成果】

・臨時休業中や再開後も学習保障を重点に課題提示や授業組み立てをし、学力向上アクションプランをコロナ禍に対応した取り組みに変更をして学習保障、定着に繋げてきた。７月には今年度実施できなかった区学力調査を活用し自校採点をして学習定着度を把握した。その結果、昨年度を正答率で 5.3 ポイント、通過率で 1.8 ポイント上回り、成果に繋がった。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・令和２年度区学力調査を活用した取組（７月実施）の正答率は 66.6%、通過率は 69.3%であった。以下が、学習の定着状況の課題であった。

国語　１学年：漢字、語句の知識（基礎）
　　　２学年：漢字の読み書き（基礎）、文法・敬語・表現（基礎）
数学　１学年：分数の計算（基礎）、文字を用いた式（基礎）、比例と反比例（基礎）、比の式を書く（応用）
　　　２学年：文字を用いた式（基礎）
英語　１学年：語の理解（基礎）、対話文の理解（基礎）、文字記述（応用）
　　　２学年：語彙・語法問題（基礎）、語順整序問題（基礎）、読解問題（応用）

・年度末令和２年度区学力調査により、上記の課題の変容や新たな課題は以下である。

国語：漢字の読み書きや語句の知識に関する基礎・基本は向上が見られる。文法の理解や記述式の問いに課題がある。
数学：全体的に学習の定着状況が向上している。
英語：語の理解や語彙・語法問題は向上した。対話文の理解は変化があまりない。文字記述や読解問題はまだまだ課題がある。

今後の対策

・金曜朝テストと放課後学習、各種コンテストの実施を計画的に継続するとともに、系統性・継続性をふまえた内容の充実を図る。
・ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業展開の充実を図る。

重点的な取組事項－２　教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上

【年度の成果】

・コロナ禍の状況下での学校生活や学習の心理的ストレスを緩和するための個別相談や三者面談の充実を図り、寄り添う指導に力点を置いてきたことで、生徒や保護者とのより良い信頼関係の構築と生徒指導力の向上に繋がった。生徒への学校生活アンケートにおける「信頼」に関する項目での肯定的回答平均は 92.6%であり、「学校生活は楽しい」が 94.4%、「入学して良かったと思う」が 93.2%、「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」が 90.0%であった。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・区学力調査の意識調査における「大人になったときの夢や目標をもっている」の肯定的回答平均が 70.1%、学校生活アンケートでの「進学や就職などについて、自分の将来について考えている」では 75.6%であり、自己肯定感、自己有用感を高めるとともにキャリア教育の充実を図っていく必要がある。

重点的な取組事項－３　小中連携による義務教育９年間を見通した教育の推進

【今年度の成果】

・今年度当初計画していた取り組みがコロナ禍の状況でほとんど実施することはできなかったが、連携小学校３校の小学６年生に対して感染防止対策を講じながら体験授業や部活動体験をＩＣＴ機器を活用した足立スタンダードを基にした授業展開で実施し、中１ギャップの未然防止と円滑な進学へと繋げることができた。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

・次年度の研究主題を「９年間を見通した教育の推進～主体的、対話的で深い学びを導く授業の工夫～」とし、中学校の新学習指導要領全面実施に伴う指導と評価の一体化を念頭に置き、生徒たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む。

（２）保護者や地域へのメッセージ

今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策により、昨年度末の３月２日から約３ヶ月間に渡る長期間の臨時休業を経て、緊急事態宣言が解除された６月１日から分散登校による学校再開となり、６月２２日からようやく全校通常登校による教育活動が実施できるようになりました。

臨時休業中は、各ご家庭においては感染症防止・予防対策における健康管理や食事の支度、学校から出された家庭学習の見守りや生活面の管理など、大変なご苦労とご心配があったことと存じます。また、臨時休業中に学校から出された家庭学習の取り組みにご理解とご協力をいただき感謝いたします。

学校が再開されてからもコロナ禍の状況は終息の見通しが立たず、新しい生活様式による学校生活が余儀なくされ、生徒の健康・安全を第一に、学習保障に全力で取り組んでまいりました。例年実施している儀式的行事、学校行事、宿泊行事等も中止となり、部活動の大会も中止や代替等で行うなど、生徒にとって一生に一度しかないことを含め、良き思い出や成長を実感する機会が失われた大変残念な一年間となってしまいました。

誰もが望んではいなかったこのような状況ではありますが、このような状況を経験したからこそ、この経験をこれからの人生の糧にし、前向きに「ピンチをチャンス」として捉えて困難を乗り越え、「チェンジ＆チャレンジ」の姿勢で、たくましく歩んでいく生徒一人一人であって欲しいと強く望んでいます。

開かれた学校づくり協議会の皆様やＰＴＡ・おやじも会の皆様には、日々の本校教育活動にご理解とご協力、そして多大なるご尽力をいただき、また、地域の皆様には、生徒たちの健全育成のためにお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。今後とも本校の充実した教育活動と生徒たちの健全育成のために、変わらぬご理解とご協力、そしてご支援や応援を何卒よろしくお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

第十一中学校は、これからの社会が変化の激しい先行き不透明な厳しい時代であっても、「通いたい・通わせたい・誇れる」学校をめざした学校教育をチーム十一中で推進していきます。文武両道を実践する学校として、生徒たちに「チェンジ＆チャレンジ」の姿勢をもたせ、自らの生き方に自信をもち社会に貢献できる本気で取組む生徒に鍛え育ててまいります。

学校の教育活動の充実は、学校と家庭と地域がひとつになり、連携し合ってはじめて可能になります。中でも、学校と家庭の両輪がしっかりと連携していてこそ、子どもの個性や可能性をのばせる教育ができるものと考えております。これからも学校、家庭、地域それぞれが「育てるべきこと」「教えるべきこと」「対応すべきこと」の役割を果たす中で、連携し合って効果的で充実した教育活動を実践していきたいと考えております。

各ご家庭においては、学校が生徒の学力向上をめざし基礎・基本の定着・向上を図る取組みをしていることをご理解いただき、家庭学習の習慣と基本的な生活習慣を身に付けさせるためのご協力をお願いいたします。

教職員は、来年度から全面実施となる新学習指導要領に即して指導と評価の一体化を念頭に、小中連携による９年間を見通した教育を推進し、授業力、指導力の向上に日々努力をしていきます。また、教育相談を充実させ、生徒の心情を理解し、認め、励まし、共に歩む姿勢で信頼関係を高め、日々の教育活動の中で生徒を鍛え、育てていきたいと考えております。

今後も第十一中学校の教育活動の充実のため、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。